

奈良市トップページ >くらし >子育て・教育・文化・スポーツ >文化情報 >お知らせ >旧入江泰吉邸について
 奈良市トップページ >市役所ご案内 >各課のページ >市民活動部 >文化振興課 >お知らせ >旧入江泰吉邸について
 奈良市トップページ >市役所ご案内 >各課のページ >市民活動部 >文化振興課 >担当業務 >旧入江泰吉邸について

旧入江泰吉邸について

いいね! { 94 }

ツイート { 0 }

戦後から約半世紀にわたって奈良大和路の風物を撮り続けた巨匠写真家、入江泰吉。その対象は仏像や四季折々の風景、伝統行事、万葉の花など多岐にわたり、「大和の美」と「日本の心」を追求してきました。大和路における風景写真のパイオニアであり、その歴史的風物のイメージは彼の作品によって全国的に定着したといっても過言ではありません。

奈良市は、世界遺産をもつ歴史的、文化的風土に恵まれた国際文化観光都市です。貴重な文化財を守り、後世に引き継ぐとともに、これら歴史都市の特質を活かしつつ、厳しい財政状況の下、費用対効果を十分に検討しながら、文化的資産を有効活用し地域文化及び観光の拠点となる施設の整備を進める必要があります。

世界遺産東大寺の旧境内地にある水門町は、大仏殿の賑わいの程近くにありながらゆかしい土塀や生け垣が続き、昔ながらの日本家屋が葺(いらか)を連ねて、古き良き奈良のたたずまいが残っています。旧入江泰吉邸はその中心に位置し、入江氏は少年時代の一時期を水門で過ごし、その後大阪に移住しましたが、昭和24年からこの家を終の住処として妻ミツエ氏とともに暮らしました。そして奈良大和路の仏像、風景、伝統行事の撮影に専念、晩年には「万葉の花」を手掛けるなど半世紀にわたって奈良大和路を撮り続けました。

平成4年4月14日、入江氏が生涯に撮影した全作品を奈良市に寄贈したことから、奈良市写真美術館がオープンしました。入江氏はその年のはじめに亡くなられ、平成11年に妻ミツエ氏から自宅の土地建物の寄附を受けましたが、平成16年11月にミツエ氏が逝去された以後は有効な活用方法を検討していました。

このたび入江氏の住まいを、彼の仕事ぶり、生活、交友をしのび、その業績を称える施設として整備するのに伴い、この文化的な視点に加えて、観光振興、地域振興、市民活動の活性化などを図ることのできる施設として、当該施設の意義をより一層高めるためにワーキンググループを設置いたしました。

旧入江邸活用ワーキンググループメンバー

牧野 貞之	写真家、日本写真家協会(JPS)会員 入江泰吉氏の愛弟子
倉本 宏	(社)奈良まちづくりセンター理事
石村 由起子	カフェくるみの木オーナー
喜多 和夫	奈良街道まちづくり研究会会員 喜多家住宅(喫茶「工場跡事務室」)オーナー)
萩原 清禎	奈良市市民活動部 次長
川本 了造	奈良市観光経済部 参事

仲谷 裕巳	奈良市都市整備部 まちづくり指導室長
原田 敏雄	奈良市建設部 次長

(アドバイザー)

兼古 健悟	入江泰吉記念奈良市写真美術館 技術員
-------	--------------------

(事務局)

西崎 美也子	奈良市市民活動部 参事 文化振興課長事務取扱
阪口 佳弘	奈良市市民活動部 文化振興課長補佐
池部 大輔	奈良市市民活動部 文化振興課
土井 一正	奈良市市民活動部 文化振興課
田中 孝好	奈良市市民活動部 文化振興課
北垣内 健二	奈良市建設部 営繕課長補佐

(敬称略)

◇入江泰吉氏



◇旧入江邸外観